

洛陽物産展

昨年、洛陽市で開催された友好都市締結10周年記念事業『岡山展覧会』の答礼事業としてまた、日中国交正常化20周年の記念事業の一環として『洛陽物産展』が6月24日から29日まで市内デパートにおいて開催されました。オープニングセレモニーでは、来岡中の『洛陽物産展視察訪日団』一行11名が出席し、段運労団長のあいさつの後、安宅敬祐岡山市長らとともにテープカットを行いました。

期間中、洛陽市から用意された記念の工芸品が県内外から訪れた多数の見物客に配られ、記念品を手にした人々は総数2000余点にも及ぶ展示品に遥か洛陽市へ思いを馳せていました。



▲ 物産展会場の正面に設置された唐三彩の馬と駝駱も物産展のために洛陽市から贈られたもの。

▼ 洛陽市技術研修生も交替で、訪れる見物客への案内役を務めてくれた（写真左端）



～1年間がんばってきます!～

『第1回岡山市技術研修生』派遣

就実女子大学3年 岡 香里



今度、岡山市技術研修生に選ばれた事をとても嬉しく思います。

1年間、語学を学び、岡山市の親善大使として洛陽の生活文化に触れていきたいと思っています。そして、私の好きなジャズダンスを通じて友達の輪を広げ、岡山市と洛陽市の友好関係を私なりに築いていきたいです。

岡山理科大学勤務 白神 浩子



私には3つのチャレンジ精神があります。

第1に会話や文化、基本的な生活を通じて私の考え方に生かし、視野を広げること。第2に職務上の興味と今後の必要性から、若者の考え方や教育制度等を学び知り、これからの仕事に生かすこと。第3に友達の輪を広げ人と人との交流を少しでも身につけ、地域の国際交流人として役に立つこと。そしてイベントの参加・企画もしていきたいです。

友好交流事業の一環として、中国語習得を目的とする『第1回岡山市技術研修生』2名の洛陽市派遣が決定。2人は、昨年12月に行われた選考会で8名の応募者の中から選ばれ、今年4月から洛陽工学院経済学貿易系外国留学生現代漢語クラスに在籍し、1年間中国語学ぶ一方、岡山市からの親善大使として洛陽市民との交流を深めていただきます。お二人の御活躍を楽しみにしています。

らでんい
羅伝偉

日本人は鳩を愛し、平和への熱き思いをみんな抱いていることを、この1年で知りました。

また、私は多くの日本の友人にも恵まれました。友人たちは、みんな親切で文化を理解し知識の豊かな人たちです。

その友人たちはとても中日友好を大切に考えてくれる人たちです。私は洛陽に帰って、自分の職場で学生たちに、日本人と日本の真の姿を、より美しい日本語で伝えたいと思っています。

りゅうきせい
劉貴生

四季折々に花が咲く岡山市、桃太郎通り、美しい富士山、立派な瀬戸大橋、雪のように綺麗な桜、そして親切な岡山市民と中日両国人民の友誼はいつまでも私の心に残っています。

滞在中、日本人の一生懸命に仕事をし、平和を愛するところに深い感銘を受けました。今、わが国は速い速度で改革開放政策を実行しています。

ぜひ、中国を訪問して下さい。いつでも熱烈歓迎します。

にんれいたつ
任麗達

岡山赤十字病院は、医療レベルの高い病院です。多くの病気が早期発見・治療され、短期間に治癒し、予防医学の方も進んでいます。東洋医学にまで研究が及んでいるのは素晴らしいと思います。中国では中医と西洋医学の結合が行われ、臨床例も多く治療効果も良好ですが、検査や実験的裏付けに欠けているので残念です。中国各地に岡山赤十字病院のような病院が出来る日を夢に見ています。

きよせいざん
許青山

市民病院での研修期間中、先生は私に臨床知識を教えてくださいました。印象深いのは、医療技術の水準が高く、診療や治療に使う医療機器が素晴らしいことです。また、研修先から学会に出席し、毎週土曜日の午後には日本語講座で勉強しました。休日には日本の友達から日本の習慣や料理の作り方を教えていただいたことが楽しい思い出です。

1年間をふり返って

再見！



第4回
洛陽市
技術研修生
帰国



1年間の研修を通じて培った専門知識を携えて、去る9月18日神戸港から故郷洛陽市へと帰国しました。

ようそうしよう
楊宗霽

日本は土地も狭いし、人口密度も高いし、どうして世界での経済大国になったのか、私がいつも考えている問題です。科学技術の振興は言うまでもなく、日本人の一生懸命に働いていることが基本的なものだと思っています。中国でも、経済振興を向上するためには、やっぱり一生懸命です。私は、母国の進歩と発展のために一生懸命に努力したいと思っています。
※平成5年4月から岡山大学院へ入学

しんけんくん
申建勳

岡山での1年間は本当に素晴らしい経験でした。美しい自然やきれいな街、立派な瀬戸大橋を見ることができ、非常に深く印象に残りました。岡山のおいしい魚と果物をいただき、こんないい所に住んで本当にラッキーだと思います。特に、岡山市民と素晴らしい友達になって最高でした。洛陽に帰ったら美しい岡山と、素晴らしい友達を忘れず、両市・両国の友好交流を一生懸命にします。

りごう
李剛

研修内容はROADIN-GFIX-TUREO 70工程クランプ部の設計、グリース塗布装置、部品図面設計、テーピングマシン装置の組み立て図と部品図の設計、全体レイアウト図面でした。
日本滞在の思い出として、日本人の一生懸命に仕事をする精神にとっても感動しました。帰国後、仕事の面で努力したいと思っています。岡山市と洛陽市、日本と中国人民の友好関係が永遠に保たれることを希望します。

日本庭園の真髄を学びたい

～サンノゼから専門家が来岡～

都市景観・樹木栽培を専門とするサンノゼ市職員マーク・ボドーイン氏が10月6日から約3週間来岡し、後楽園をはじめとする県内外の庭園・公園を視察し、造園や庭園維持管理技術等を熱心に研修しました。また、滞在中は岡山市民宅にホームステイし日本文化や習慣等も学び交流を深めました。



◀ 熱心に松の剪定技術を学ぶボドーイン氏。



◀ 西川緑道公園で市職員の説明を熱心に書き留めるボドーイン氏。(左端)



◀ 後楽園を模した「日本友情庭園」(サンノゼ市内)

ボドーイン氏はこの庭園の維持管理も担当している。岡山での経験が十分に生かされて欲しい。

ザ・サンノゼ・レイダース来岡

～第5回マーチングインオカヤマに特別出演～

世界的に有名なカラーガード「ザ・サンノゼ・レイダース」一行33名が昨年10月来岡しました。一行は、毎年秋に市内で開催する「マーチング・イン・オカヤマ」に特別出演した他、市役所表敬訪問や、市内学校での交流行事への参加など交流を深めました。また、後楽園や瀬戸大橋などを視察し岡山に対する理解を深めました。



▶ 後楽園での楽しい一時を過ごす一行

◀ 市役所まで行進する「ザ・サンノゼ・レイダース」



子連れアメリカ記

元サンノゼ交換学生・会員 木村 明美

昨年の夏、6週間子連れアメリカの旅を楽しんできました。最後の3週間は夫も加わり、家族ぐるみ大いに盛りあがって、カリフォルニアの太陽のような夏でした。

最初の2週間は、ホリスターに住む'80年交換学生で、私のサンノゼ時代のホストシスターである、リンダ・シャタック（ボサンコ）のお宅にステイしました。可愛かったリンダも今や3児の母となり、今回はお互いの子供達が友情を育む番になりました。言葉のハンディーがあっても、相手を思いやる気持ちをもてば、友達になれることを子供達も学んだようでした。

サンノゼ市内では、ずっと文通を続けている日系のヤスカワさんのお宅にステイしました。ダウンタウンに出かけた時には、その変わり方にすっかり驚きました。市電が走り、ビルが建ち並ぶ風景は、15年という時の長さを端的に知らせてくれました。そしてかわらぬ友情を示してくれる友人達に改めて感

謝しました。お電話しただけなのに、わざわざ御自宅に招いてくださった、パシフィックネイバース初代会長ホーバー氏の夫人との初めての出会いもうれしい時間でした。暖かい思いをもった方々が力を注いでくださったおかげで交換学生制度も長く続いたのだと再認識しました。時を超える友情を次世代にまで伝えて育ててゆきたいと願った、サンノゼへの旅でした。



リンダ・シャタックの3人の子供達と我家の子供達
(写真中央が筆者)

姉

妹

都

市

訪

問

記

洛陽市少年サッカーチーム との交流

洛陽市少年サッカーチーム団長
会員 堤 正

1984年8月第1回大会が洛陽市で行われて以来友好交流も今回で第6回となりました。

交流の主旨は、21世紀で活躍が期待される両国少年たちとサッカーを通じて交流をはかり、よりよき友好の輪を広げるとともに、国際的視野で活躍できる人間形成の一助とすることにあります。出発当日は、九州方面に台風接近と言うことで出発が危惧されましたが飛行機は予定通り出発し近代的な空港に変身した上海に正午到着。空港には洛陽友好協会の呉小現先生の出迎えを受け、市内観光の後夜行列車で洛陽市へ、少年たちに中国の第一印象を聞きますと「広い・人が多い」が中国初日の印象でした。一夜明け、変わらぬ車窓か

らの景色に、「広い」が実感としてわいて来たようです。列車は20時間の旅を終え洛陽市へ到着、ホームには洛陽市友好協会副会長の戴保安先生をはじめ通訳の張さん、鉦山第二小学校足球队のみなさんの熱烈歓迎を受けました。

歓迎式では歌、舞踊、折り紙などの文化交流を行い楽しい一時を過ごしました。交流試合は1日3試合合計6試合行いレベルの高いチームと互角に戦い良い試合でした。選手達はお互い別れを惜しみながら再会を約束し会場を後に致しました。



両市のサッカー少年達（後列真中が筆者）



姉妹都市サンホセ

岡山サンホセ交流協会
藤井 孝子

姉妹都市でなかったら、コスタリカ共和国のサンホセ市と聞いてもなかなか位置とか街のようすなどのイメージが浮かばない事は確かですが、四半世紀になる友好の絆は着実に岡山市とサンホセ市を身近かなものに深めて来たようです。10周年、20周年の訪問団や、日本庭園の研修生を二人迎えたことなど、実際にふれあった機会が友好の深まりを増していると思います。毎年一月の末に行われる「サンホセ姉妹都市の夕べ」もそのひとつです。サンホセに行った事のある方々のお話、民芸品や写真など話題も豊富です。今年は、昨年コスタリカ取材したイラストレーターの戸川郁夫氏の写真展がメインとなって会場を盛りあげていました。

西川アイプラザでの「あいフェスティバル」も岡山の人々に特に子供達に友好のふれあいの大切さを

知ってもらえたのでは……と思います。サンホセの日本人学校の先生をしておられた山田さんの説明を聞く子供達の目の輝きから国際交流の大切さを感じました。

地球上での距離は、はるか速くてもスペイン語と日本語という違う国語でも心と心が通じ合えば、友好の絆はしっかり結ばれるという証です。

国際交流を考えると、若い世代や子供達にもっともっとふれ合いの機会を作ることが私達の今後の課題のような気がします。



コスタリカの話に熱心に耳を傾ける子供達
(教えているのは山田羊平氏)

コスタリカでの異文化体験

協議会事務局職員
山田 羊平

40数年間、日本の暮しにどっぷり漬かってきた私が、しかも定年前の歳で、スペイン語の事も知らないまま、風俗習慣・国民的気質・文化の違うコスタリカで3年間生活した。最初の1年は適応するのに大変苦労し、毎日のように岡山の夢を見た。早く慣れたのはシャワーだけの入浴、左ハンドルの車の運転など体を通しての体験だった。

最も難しかったのは考え方で「日本ではこうなのに、どうしてコスタリカは」というように、自分の基準に合わない時、不満を持ったり、批判的な見方をしたりした。それも、現地社会とのかかわりを持つたびに感じた。「郷に入れば郷に従え」と思いつつ葛藤する事が多かった。

岡山に住む外国人も同じような経験をしているだろう。そのような事を無くすには、お互いの国が持っている文化の特徴を優劣で判断するのではなく、お互いに教え十分に説明し納得しあい、理解しあおうとする努力の積み重ねが大切だと思う。

初めて、ビールを買いにスーパーに行きレジの人に「空ビンを持って来ているか」と尋ねられたのに、

何か不都合でもしたのかと身構え緊張したことが、今では懐かしい思い出になっている。もともと消極的な私は家に閉じこもる事が多かった。そんな私の無聊を慰めてくれたものが2つあった。

日曜日、繁華街の文化広場で演じられる大道芸。今年一月末の日曜日、上野公園の数か所でボリビアなど数か国の人が演じる大道芸を多くの人が楽しんでいるのを見て、さすが東京と思った。岡山の下石井公園でも気楽に出来ないものか？。

もう1つは、百年経て古色蒼然とした国立劇場での演奏会。国立交響楽団（第二バイオリン首席奏者は京都出身の日本人）が定期演奏会を年11回開く。各演奏会は木・金・日曜の3日間、日曜日は午前中で親子連れが寛いで聞いていた。料金は国の補助で70円から700円の低料金である。

2年目からは、コスタリカの生活に慣れめったりしたコスタリカの生活を楽しむことができた。



大道芸を楽しむ市民

友好交流サロシ



◀ 友好交流サロンオープン

5月12日、友好交流サロンが入る「西川アイプラザ」が洛陽市副市長や安宅市長らのテープカットでオープン。

オープンを記念して5階ホールでは「国際交流講演会&シンポジウム」、4階展示コーナーでは「交流のあゆみ展」が開かれ、国際交流の新たな拠点として活動を始めた。

～オープン記念事業～

国際交流講演会

「地域に根ざした国際化—アジアに向けて」と題して、上智大学名誉教授 鶴見和子先生の講演会を百余名の聴衆が熱心に聞いていた。

国際交流講演会



◀ シンポジウム

「岡山の国際化について」岡山大学教授 田中治彦先生をコーディネイターに4人のパネラーが国際交流について意見を発表した。

洛陽交流のあゆみ展

友好都市洛陽から贈られた書画や工芸品と交流の記録写真等を展示して、交流10年間のあゆみを披露した。



平成4年度総会と講演会

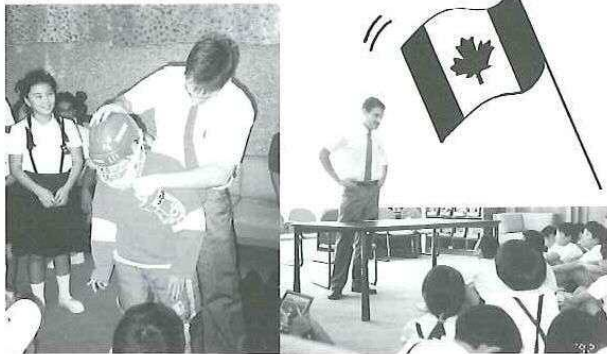
5月27日、総会に引き続き、「世界の共通項を求めて」と題して重井医学研究所長 沖垣達氏の講演があった。

◀ 協議会総会

▼ 講演会



～交流事業この一年～



カナダ展

9月24日から3日間、カナダ大使館から取り寄せたビデオによるカナダ紹介や観光ポスター展。

(ハングル講座 孔錫亨先生)



(中国語講座鳥越崇昌先生・永井節志子先生)

日本語教室

6月4日から毎木曜日、バングラディッシュなど7、8カ国の在岡外国人が、早く日本語で話したいと勉強している。



▲情報コーナーに、まず目を通してサロンへ

◀ダグと語ろう

9月の第2土曜日、学校が休みになった子供達は岡山市の国際交流員ダグラス・ピーターソンからカナダの紹介、カナダの遊びを教えてもらい楽しい交流の一時を過ごした。



◀ハングル・中国語講座

7月7日から毎火曜日、身近な韓国、中国を知ろうと20代から70代の市民の方々が語学に挑戦。授業だけでなく旅行や料理などを通して、歴史、文化、経済など幅広く学んだ。最初42人でスタート、26人が最後まで頑張った。



◀情報誌『あくら』の編集会議

協議会員が中心となって英語、中国語、スペイン語、日本語の4か国語で生活に密着した情報誌の発行を始めた。第2号から、ハングルを加えて5か国語で発行。日本でもユニークな情報誌となっている。



▲ボランティア通訳研修会運営会

ボランティア通訳・翻訳登録者有志が集まり、ボランティア通訳研修会の企画・運営を始めた。